



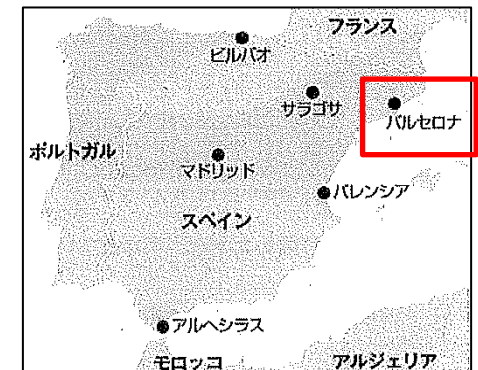
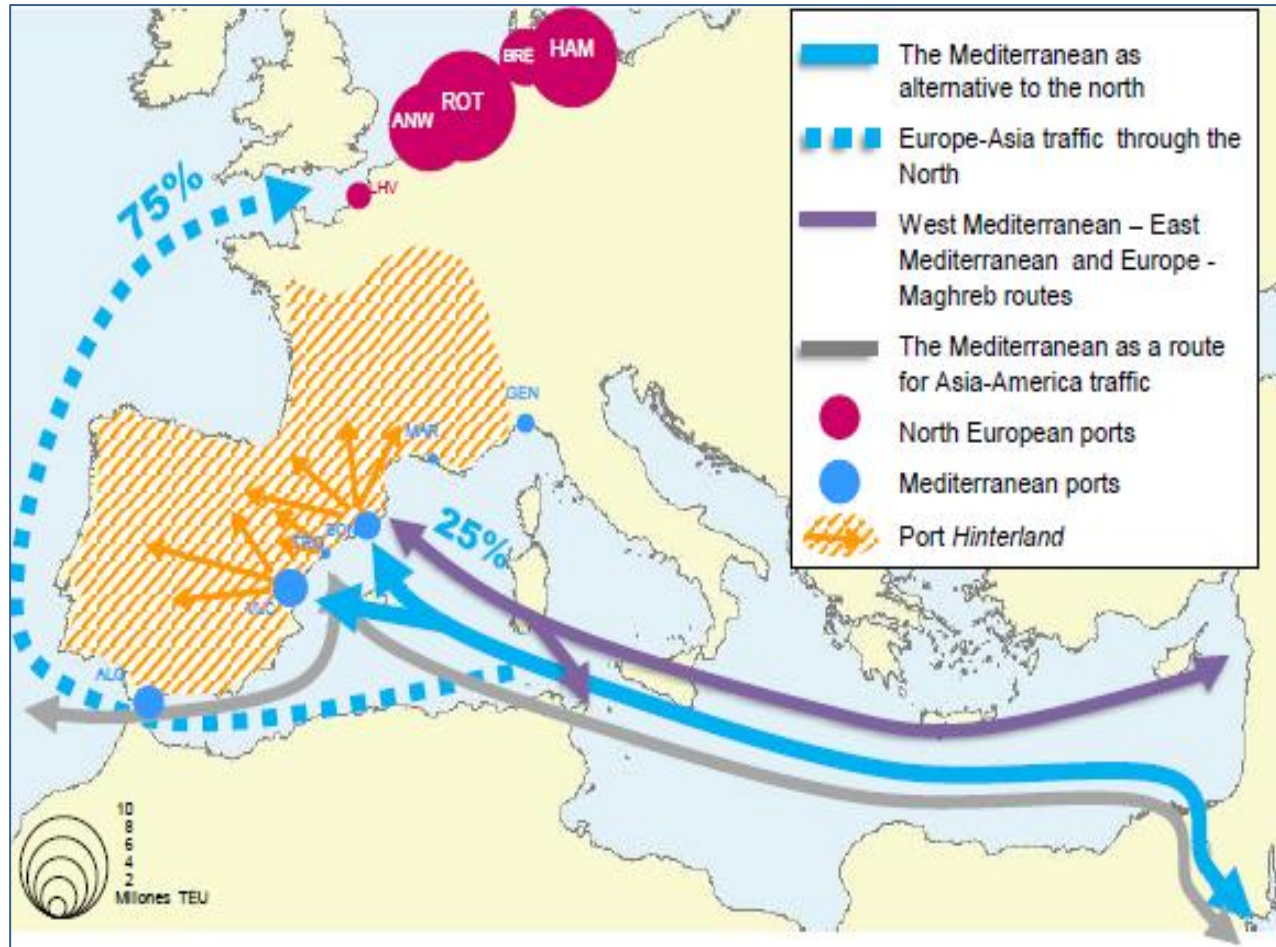
バルセロナ港のロジスティクス戦略

2019年1月24日
神戸市みなと総局
小泉陽司

工業・スポーツで栄えるバルセロナ



バルセロナ港の地理的優位性



バルセロナ港 第3次戦略計画

バルセロナ港第3次戦略計画（2015-2020）

3本軸 「成長」「競争力」「持続可能性」



13の戦略目標

- ①戦略的な取扱貨物を拡大
- ②バルセロナ港の背後圏を拡張
- ③前方圏との接続性を改善
- ④バルセロナ港の大規模な拡張を完了
- ⑤港湾サービスの効率と品質を改善
- ⑥商品の流通の物流コストを削減
- ⑦新規サービスの創出と既存の差別化サービス（ブランドサービス）の強化
- ⑧港湾サービスとプロセスのイノベーションを促進
- ⑨アクセシビリティとモビリティの向上
- ⑩インターモーダル性の向上
- ⑪持続可能な方法により成長
- ⑫港と都市の一体化を改善
- ⑬地中海におけるプレジャーボート産業の拠点のひとつに

鉄道コンテナシェア目標
20%（2020年度）

近隣港直行定期航路目標
130本（2020年度）

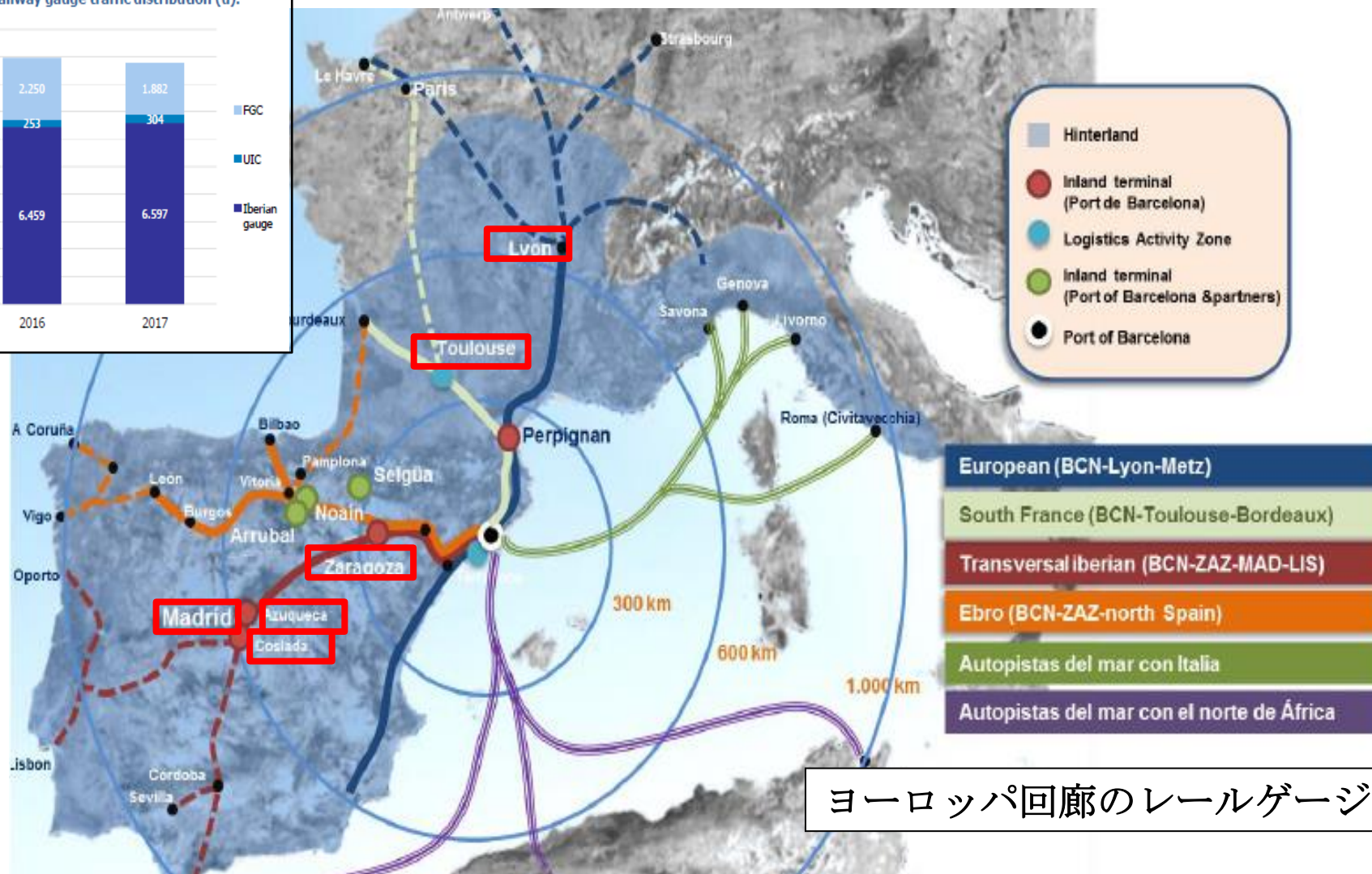
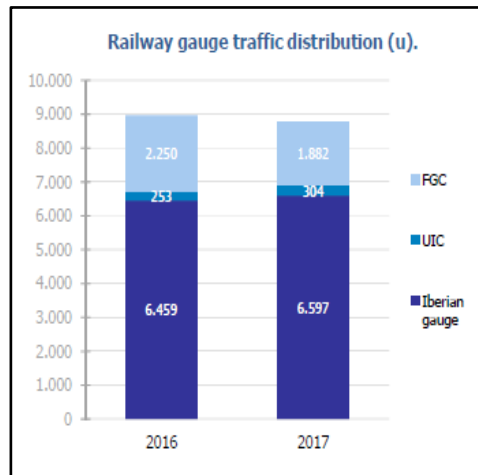
ロジスティクスパーク (ZAL)



	面積	雇用者数	企業数	倉庫床面積
ZAL-Barcelona	約65ha	約5000人	約100社	265,000m ²
ZAL-Prat	約143ha	約8000人	約120社	580,000m ²



バルセロナ港背後圏ネットワーク

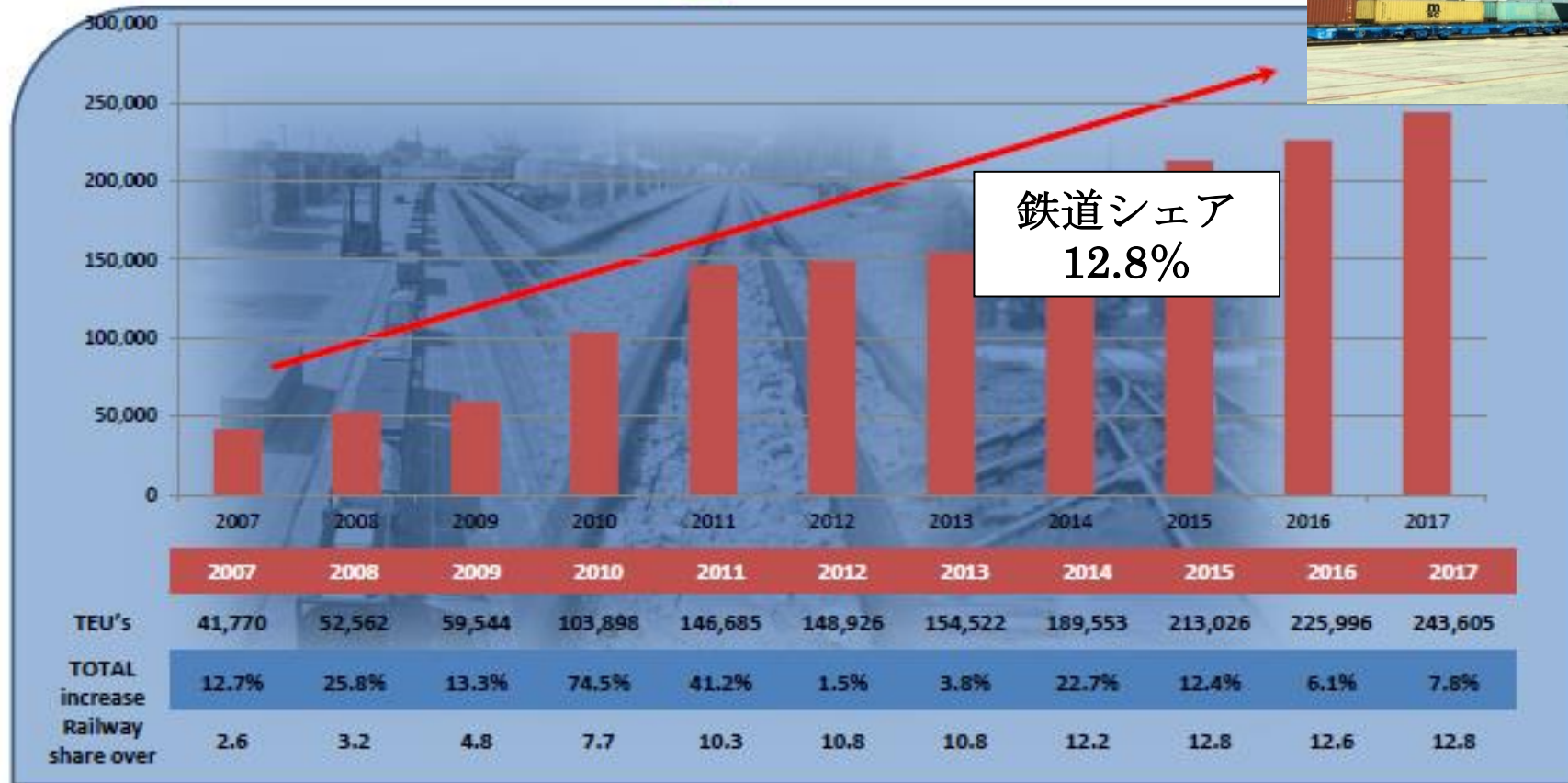


ヨーロッパ回廊のレールゲージ統一

バルセロナ港における鉄道貨物量の推移

Railway traffic evolution in the Port of Barcelona

Quality and cost =  increase in 10 years

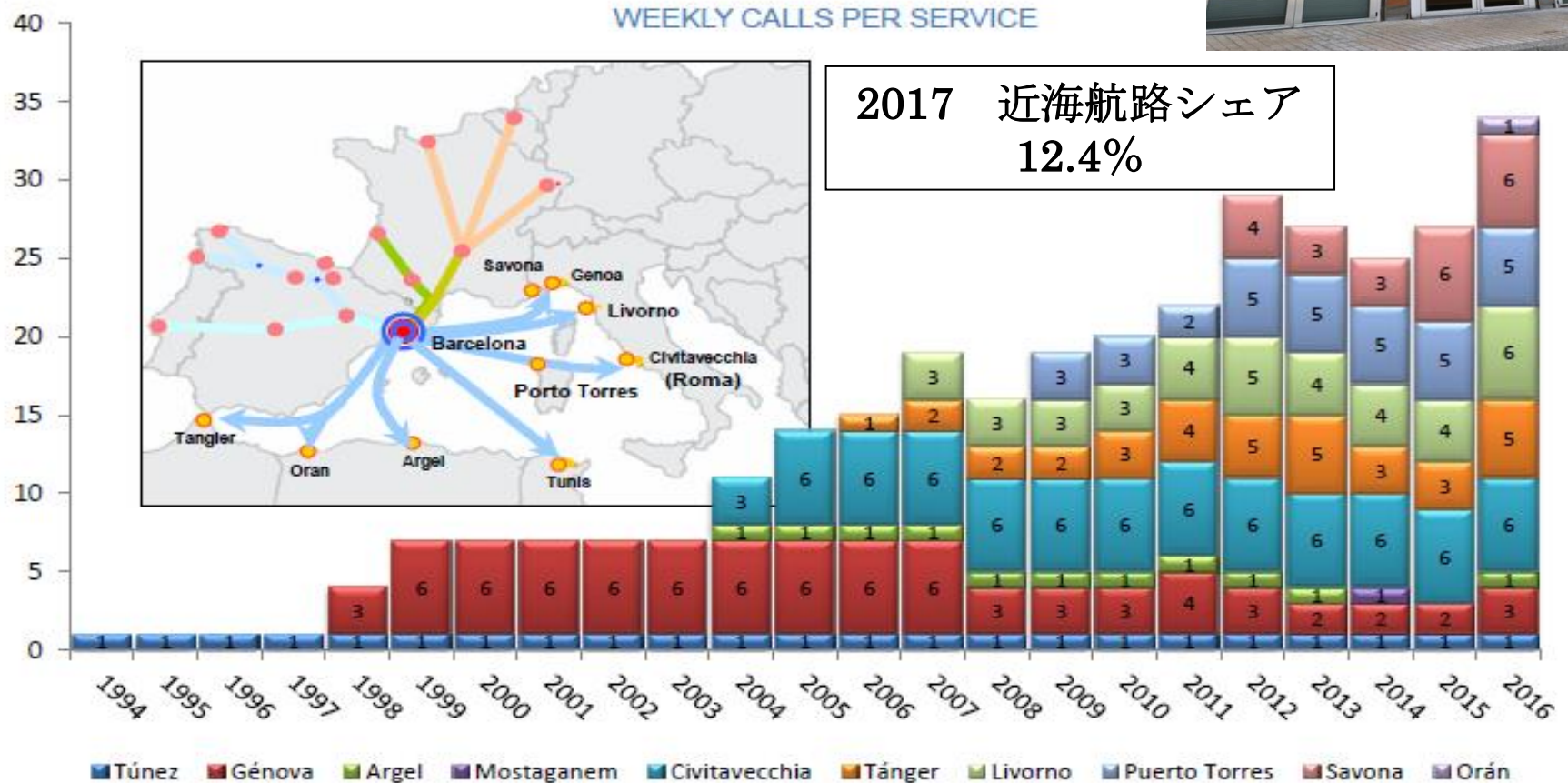


近海航路の週あたり便数推移

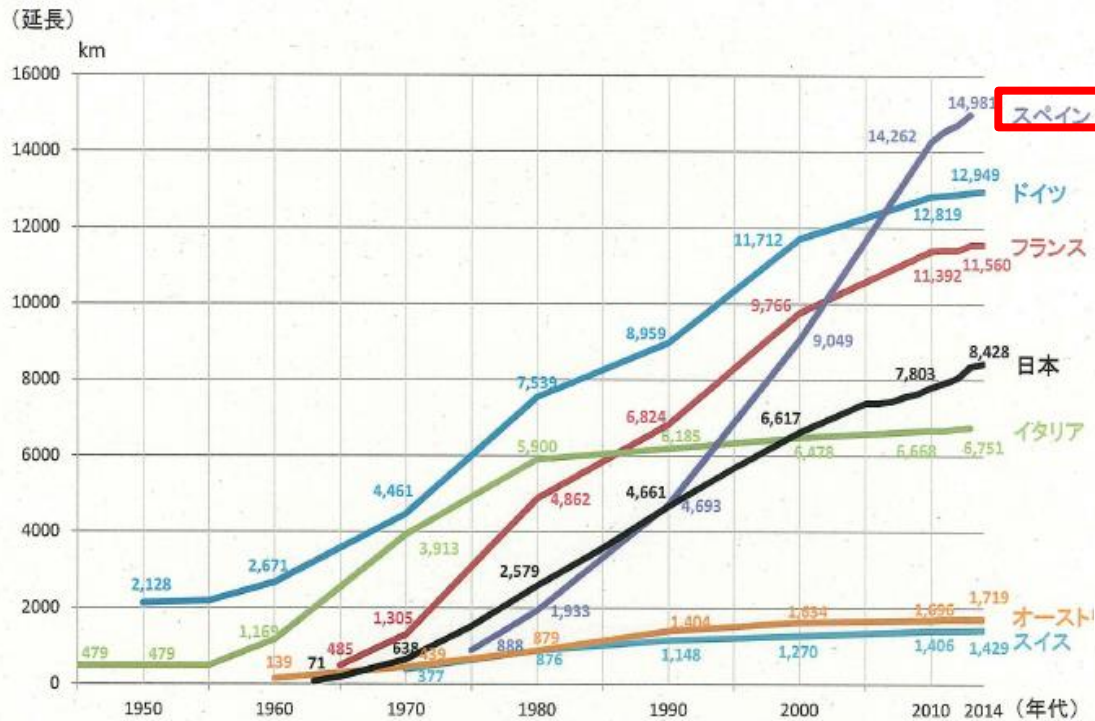
04

PORT SUSTAINABILITY

INTERMODAL SERVICES OFFER: MoS ro-ro and ro-pax serv



スペインの高速道路網



欧州で最も長距離
高速道路網の実現
(2014)

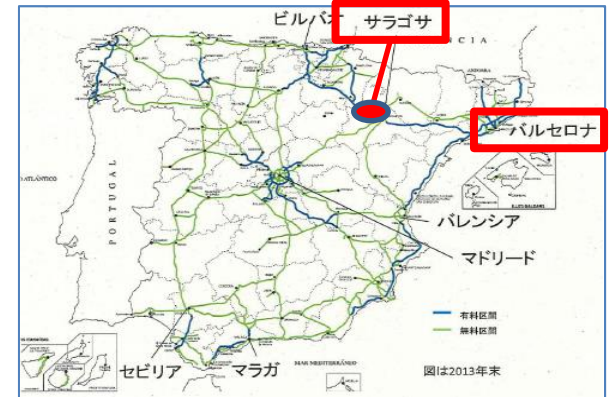


内陸ロジスティクス拠点（サラゴサ）

TMZ（Terminal Maritime Zaragoza）



- ・ 10ha以上の物流エリア
- ・ 4千個以上のコンテナ蔵置場
- ・ 約750m鉄道運行可能



生鮮食品のための冷凍コンテナ蔵置場（60台）

戦略計画
「経済的持続性」
「環境的持続性」
「社会的持続性」

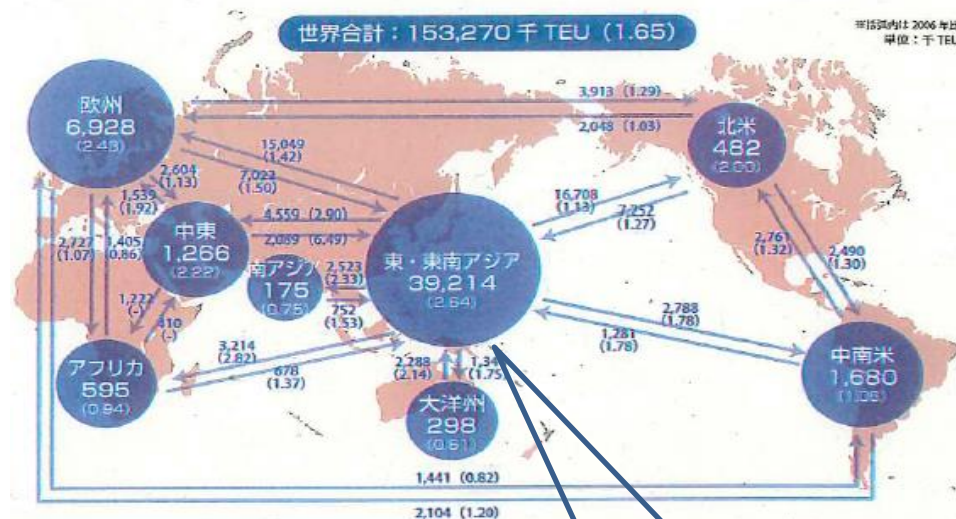
内陸ロジスティクス拠点（コスラダ）



コスラダ



考察- 1 (注目すべきアジア)



**アジア域内のコンテナ荷動き量は
世界の約3割弱を占める！！**

- ・ アジアとの近海航路はリードタイムが重要
- ・ 日本と国境がないような物流の実現が必要

考察-2（参考：神戸港）

神戸港将来構想（2050年）

次世代コンテナターミナルと流通・加工・製造機能の高度集積地の一体化
＝神戸港ロジスティクスターミナル

【取組と対策案】

集貨

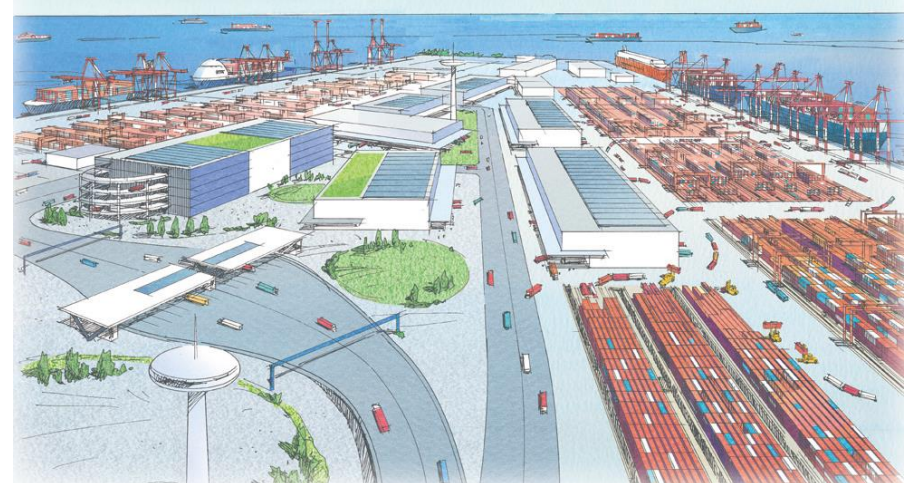
- 「アジア広域集貨プロジェクトチーム」
（対策案）行政サイドで検討実施可能な規制緩和策 等
- 「阪神インランドコンテナデポ」
（対策案）保税機能の強化、
農産物等冷凍コンテナ貨物の輸出強化 等

創貨

- 新たな貨物を生み出す企業の立地を促進させる
ための大阪湾内都市との都市間連携
（対策案）行政サイドで検討実施可能な規制緩和策
（用途地域の見直し等）
（対策案）総合保税地域の活用 等

⇒ 貨物に対する **「付加価値」** の創出

日本の港湾に求められる
荷主等利用者が求める付加価値とは何??



考察-3 まとめ（日本の港湾への示唆）

<目指すべき方向>

- ・ 今、まさに見直される日本のモノづくりを見つめなおし「高くても素晴らしい」モノやサービス売る国
(つまり 日本の港湾における付加価値は、安全・安心といった品質！！)
- ・ 日本とアジア各港を短いリードタイムで結ぶ直行便サービスの強化



ひとつひとつの製品に対して、それぞれの港が抱える地域の文化や特性、得意とする技術等を活かし、タイムリー且つ正確で肌理細やかなロジスティクスサービスを提供
(新たな価値を創造する「国際ロジスティクス・センター」)



日本人が得意とする「**気配り**」



周辺アジア国を背後圏と捉え、背後圏ネットワーク強化に向けた取組み支援
(そのためには日本の港湾関係者との協議会的な枠組みを超え**アジアのロジスティクスに通じたプロジェクト組織の形成が重要！！**)



港湾管理者は横断的に改善可能施策を積極的に展開（単なる**管理から経営へ**）
地道な努力が潜在的な輸送力の発揮に繋がり、結果として荷主等との信頼性UP



VAL機能（Value Added Logistics）強化は、結果として基幹コンテナ航路の充実・強化につながる

ご清聴ありがとうございました

